



3-099RTC-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書

ニッペ 1液サーモアイシーラー
1液弱溶剤エポキシ系高付着高日射反射率（遮熱）シーラー

☐ 特 長
☐ 塗 料 性 状

・浸透・造膜のバランスが取れ密着性・上塗りの外観を良好にします。

色		白				
密度(g/cm ³)(23℃)		0.99				
光 沢		規格なし				
引 火 点		29℃				
発 火 点		288℃ (参考値)				
消防法 表 示	化 学 名	合成樹脂エナメル塗料				
	危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)				
	危険物等級	III (火気厳禁)				
有 機 溶 剤 区 分		第3種				
毒 劇 物 表 示		—				
有 害 物 表 示		—				
国 連/指 針 番 号		1263/128				
環 境 性 能	クロル ^o リホス	配合せず	ホルムアルデヒド ^o	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	0.5%	パラジ ^o クロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	0.1%未満
	スチレン(モノマー)	0.1%未満	フタル酸ジ ^o -n-ブチル	配合せず	テトラ ^o カン	配合せず
	フタル酸ジ ^o -2-エチルヘキシル	配合せず	ダイアゾ ^o ノン	配合せず	アセトアルデヒド ^o	配合せず
	フェノ ^o カルブ ^o	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		49.6%				

☐ 塗 装 基 準
荷 姿：
希 釈 剤：
塗 装 方 法：

15kg
無希釈

塗 装 方 法	はけ、ウールローラー、エアレススプレー塗り
希 釈 率	—
使 用 量	0.14～0.28kg/m ² /回

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾 燥 時 間：

	5～10℃	23℃	30℃
指 触 乾 燥	45分	30分	5分
塗 り 重 ね 乾 燥	4時間以上7日以内	4時間以上7日以内	3時間以上5日以内

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 特記事項

- ・水切り部で屋根材の重なり部分に塗料が付着し詰まっていると、漏水の原因になります。皮すき、ケレン棒、カッターなどを用いて溜まった塗料を除去する縁切りを行ってください。
- ・水洗い後は、1日以上乾燥させてください。また素材表面が雨、露などで濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないでください（光沢低下、膨れ、割れ、はく離の原因となります）。
- ・下地調整が不十分だと塗膜はく離の原因となったり、光沢が出ないなどの仕上がり不良になる場合があります。塗り替えでは必ず素地に近づけ9.8MPa（＝100kgf/cm²）以上の高圧水洗が金属ワイヤブラシなどによるケレン後、水洗いを実施し、付着物、劣化塗膜や基材の劣化物を十分に除去してください。
- ・昼夜の温度差が激しい時期や、山間部など夜露の早く降りる地域では、結露によるつや引け現象が起こりやすいため、早めに塗装を終えて十分に乾燥時間を確保してください。塗装後早期に結露の影響を受けると光沢低下や膨れ、割れ、はく離の原因になります。
- ・使用量は、濡れ感が出るまでを目安にしてください。素地への吸い込み箇所がある場合は、その部分を増し塗りしてください。また、シーラー乾燥後ガムテープで基材のはがれがないかチェックし、はがれなどがある場合は再度シーラーを塗装してください。
- ・吸い込みが少ない素地や下地の場合には、乾燥不良による縮みや膨れが起こる可能性がありますので、各工程間の乾燥時間は十分長めにとってください。
- ・鉄、アルミニウム、電気亜鉛めっきなどを塗装する場合は入念な面荒しを行ってください。さびが発生している場合や、腐食環境の厳しい環境では防錆性の高いさび止め塗料を使用してください。
- ・蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・さび汁などがある場合は、サンドペーパーで除去してください。
- ・吸い込みやすい基材では使用量が多くなります。
- ・FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整（目粗し）を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
- ・経年したサイディングボード面への塗装は、劣化が進行しており、表層内劣化部からはく離するおそれがあります。試験施工をおこなって付着性を確認してください。
- ・押出成形セメント板（アスロック、メースなど）におきまして、弱溶剤系シーラーとニッペリシンの組合せによる仕上げをする場合、シーラーの乾燥が不十分であると割れ、はく離などの問題が起こる場合があります。ニッペリシン仕上げの場合は、シーラーにニッペ浸透性シーラー（新）をご使用ください。
- ・本品を塗装する場合は、上・中塗りの透けや塗り残しのないようにご注意ください。また当たり傷などにも注意してください。上・中塗りに透けや塗り残しまたは当たり傷などがあると紫外線により周辺塗膜が早期に劣化する恐れがあります。
- ・塗装後、翌日までに降雨の心配がある場合は、白化するおそれがありますのでご配慮ください（塗装後3～5時間ぐらひは、絶対に雨に合わないようにしてください）。
- ・シーラー類、サフェーサーと上塗りの混合は避けてください。はけ、ローラーなどの共用も避けてください。
- ・下塗り乾燥後、ガムテープで基材のはく離がないかチェックし、はく離がある場合は、再度下塗りを塗付してください。
- ・防さび性はありません。むね、すみねなど金属製物が、さびている場合は、発さび部とその周囲を十分にケレンし、下塗りに、「ニッペ1液ハイボンファインデクロ」塗装後、上塗りを塗装してください。
- ・無石綿スレート板に塗装すると反りやクラックが発生する可能性があります。
- ・大理石、金属光沢を有するラスタータイル、はっ水処理を施した素焼きタイル、グラファイトを施したいぶしタイル、れんがタイル・素焼き風タイルへの施工は避けてください。その他、特殊なタイル面への施工については、試験施工により確認してください。
- ・目地部がぬれ色になるまで下塗りを塗装してください。
- ・目地部が深く、ローラーなどで入りきらない場合は、目地はけなどで塗装してください。
- ・目地部の塗料たまりや被塗面にダレを生じた際は、目地はけ、ローラーなどでむら切りし、除去してください。
- ・下地調整程度が悪い場合には、早期にさびが発生する可能性があります。
- ・本品は規定の塗り重ね乾燥時間よりも早く上塗りを塗装しますと、縮み、

- 割れ、乾燥不良を起こしますので、塗り重ね乾燥時間をまもってください。また、吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗り重ね乾燥時間は長めにとってください。短時間で上塗りを塗装しますと、溶剤による膨れや縮みなどが発生するおそれがありますので避けてください。
- ・本品の上には2液形塗料を塗装できますが、塗り替え用のリフティング（縮み）防止には使用できません。
- ・上塗りにクリアー塗料の使用は避けてください。紫外線の透過によりシーラー層が劣化し、はく離の原因になります。
- ・弱溶剤系つや消し塗料（ケンエースGシリーズ）や、強溶剤系上塗り塗料を塗装すると、ひび割れが発生する場合がありますので、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ・劣化の著しい木部については、表層剥離の恐れがありますので、施工は避けて下さい。
- ・吸い込みの少ない素材にはシーラーがタレやすくなるのでご注意ください。被塗物に汚れが多く残存すると付着低下のおそれがあるため、施工前は十分水洗してください。
- ・粘土瓦の種類でいぶし瓦には使用しないでください。洋風コンクリート瓦仕様の再塗装の場合は、別途最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。
- ・高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを5日以内に塗り重ねてください。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において果穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200）などで処理してください（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください）。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。

□ 注 意 事 項

- ・クロスの上の塗装は避けてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル銅板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- ・平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ・上塗りに強溶剤系塗料のご使用は避けてください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。